

はじめに

1. 調査の目的

- ・ 阪神・淡路震災復興計画の計画期間が満了する 10 年目にあたり、これまで震災復興計画や後期 5 年推進プログラム等の各プログラムに基づいて進めてきた取組の実績や成果を総合的に把握する必要がある。
- ・ そのため、「復興 10 年総括検証・提言事業」の一環として、健康福祉、社会・文化、産業雇用などの分野における各種統計指標等の収集・整理を行う「指標等からみた復興 10 年の成果収集調査」を実施する。

2. 調査内容

- ・ 総合的な復興状況を示す各種統計指標等を収集・整理し、とりまとめを行った。

(1) データ収集・整理の考え方

復興状況に関するデータの収集

- 震災関連で特に注目されたテーマに関する指標データの収集(計 153 指標)
- ・ 震災復興に係る主要な指標に加え、震災がもたらした社会潮流等を示す指標データ等を収集した。
- ・ 行政データだけでなく、各種業界団体や民間機関等の指標データについても幅広く収集した。
- 長期的な社会潮流の中での復興状況を把握・整理
- ・ 震災 10 年の検証を行うにあたり、震災前 1,2 年前からのデータ推移の傾向を見るのではなく、バブル経済期以前の 1985 年前後から統計データを収集し、長期的な社会潮流を把握しつつ、兵庫県・被災地が震災により受けた影響やその後の復興状況について整理を行った。

ベンチマークの設定

- 指標の比較対象(ベンチマーク)の設定
- ・ 収集可能なデータに関しては、「被災地域(10 市 10 町)」「兵庫県」「全国」等、各種地域区分毎にデータの収集を行い、指標の比較対象(ベンチマーク)を設定した。

(2) 復興指標区分の考え方

- 各分野毎に、インプット指標、アウトプット指標、アウトカム指標の様々な視点からの復興状況の把握を行うことにより、これまで県において取り組んできた各種施策・取組の実績や成果について総合的に整理した。

インプット指標(投入指標)

- 事業に実際に投入された費用(予算や人員など)を表す指標

アウトプット指標(活動、結果)

- 実施した活動、提供したサービスの回数・量(チラシの発行枚数、道路整備距離、講座参加者数など)を表す指標

アウトカム指標(成果)

- サービスを受けた人が得た効果、影響(満足度の変化、得た情報量、短縮した通行時間、学んだ知識の量等)を表す指標



(3) 本報告書の構成

- ・ 本報告書は、「 分野編」「 地域編」で構成している。

分野編

- ・ 「 分野編」においては、以下の6分野について、指標の整理を行った。
 - 復興総括 ～総合的な復興状況(28 指標)
- ・ 各分野に共通する基礎的な指標を整理
 - 健康福祉関連分野(30 指標)
- ・ 高齢者、医療、コミュニティ、住宅等に関連する指標を整理
 - 社会・文化関連分野(22 指標)
- ・ 県民の参加、教育、女性・青少年、文化活動、国際化等に関連する指標を整理
 - 産業雇用関連分野(34 指標)
- ・ 地場産業、商店街、観光、新産業育成、雇用等に関連する指標を整理
 - 防災関連分野(13 指標)
- ・ 防災体制、自主防災組織、防災ボランティア、防災意識等に関連する指標を整理
 - まちづくり関連分野(26 指標)
- ・ 都市計画事業、社会基盤整備、景観、環境等に関連する指標を整理

地域編

- ・ 分野編において整理した指標のうち、地域特性を把握するために必要と考えられる指標を用いて、地域毎の復興状況の概要を「地域カルテ」として整理した。
- ・ 以下にあげる被災地域(10 市 10 町)を地域カルテの対象とした。(ただし、淡路島の10 町に関しては、津名郡及び三原郡として整理した。)

神戸市	尼崎市	明石市	西宮市	洲本市
芦屋市	伊丹市	宝塚市	三木市	川西市
津名郡(津名町、淡路町、北淡町、一宮町、五色町、東浦町)				
三原郡(緑町、西淡町、三原町、南淡町)				

3. 調査実施

-
- ・ 本調査は、(財)阪神・淡路大震災記念協会に委託し、株式会社U.F.J総合研究所大阪本社が実施した。

